

【フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校)

都道府県名	群馬県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	尾島町立尾島中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	1	13	25
生徒数	146	142	151	4	443	

研究の概要

1 研究主題

「確かな学力を身に付け、意欲的に活動する生徒の育成」
～評価を生かした指導方法の工夫を通して～

2 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

・全学年・全教科
 研修主題に迫るためには、全学年全教科において、生徒が意欲的に取り組む授業を実践し、授業改善を推進していかなければならないと考える。

(2) 年次計画

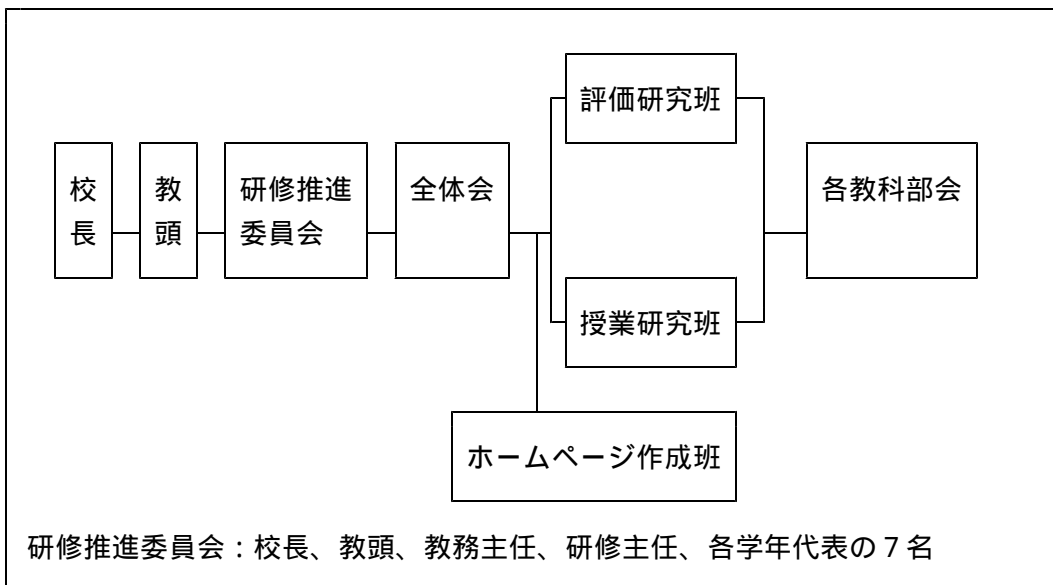
平成14年度
 研究の重点 生徒の実態を的確に捉えるための評価方法の研究
 研究の見通し(仮説)
 各教科の十分満足できる状況とおおむね満足できる状況の価規準を明確にし、生徒の実態を的確に把握すれば、個に応じた指導の工夫ができるであろう。
 研究内容・方法
 各教科において、各単元ごとの評価規準を明確にしていく。
 評価規準をふまえ、生徒の実態をどのように把握していくか、その方法を研究する。さらに、その実態をどう指導に反映させていくか、授業改善を図りながら実践を通して課題を明らかにする。

平成
 研究の重点 指導と評価の一体化を目指した授業改善
 研究の見通し(仮説)
 一単位時間あたりの評価規準およびその達成のための支援の手だてを具体的にし、生徒の実態に応じた指導を進めていけば、「確かな学力」を身に付けさせていくことができるであろう
 研究内容・方法

15 年 度	<p>個に応じた指導を進めるためには、生徒の実態を把握することだけでなく、その評価をどう指導に生かしていくかが大切になってくる。そこで本年度の研修内容を以下のように変更した。</p> <p>内容：指導と評価の一体化に向けて、単位時間あたりの学習目標、支援の方法を明らかにする。そして授業改善を進めることにより「確かな学力」を身に付けさせていく。</p> <p>方法：各教科において、単元指導計画、評価計画を作成する。その中でA、B規準達成のための具体的な手立てを明確にし、授業改善を進めていく。生徒にとって「わかる授業」「意欲的に取り組む授業」とはどんな授業なのかアンケート調査を行い、その結果の分析をもとに授業改善を進めていく。</p>
--------------	---

平 成 16 年 度	<p>研究の重点 指導と評価の一体化の充実</p> <p>研究の見通し（仮説）</p> <p>教師が指導目標、評価規準を明確にして授業改善を進めるとともに、自己評価によって、生徒が自ら学習課題を持ち授業に意欲的に取り組むようになれば、「確かな学力」が身に付いていくであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>内容：教師の評価、生徒の自己評価をふまえて授業改善を進めていく。</p> <p>方法：単元指導計画、評価計画の充実改善を図るとともに、評価の充実を図るための補助簿、自己評価表等を工夫する。</p> <p>生徒対象のアンケート調査を実施し、昨年度の結果と比較検討を行う。</p>
------------------------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果および今後の課題

1. 研究成果

単元指導計画および一単位時間あたりの具体的評価規準を作成したことにより、授業の指導目標が明確になった。また、おおむね満足できる状況を達成するための具体的な手だてを示したことにより、指導目標と支援が一体となった授業が行えるようになった。

一単位時間における評価規準を明確にし、本時のねらいの達成に向けて教材・教具の工夫や指導形態の工夫を行ったことにより、生徒にとってより分かりやすい授業を行うことができた。

生徒にとって「わかる授業」「意欲的に取り組める授業」のアンケート調査を行ったことにより、生徒の望む授業の形が明らかになってきた。そこで、生徒の実態をふまえた教材・教具や指導法を工夫したことにより、生徒は学習に前向きに取り組むようになってきた。

2月に実施したC R T（観点別到達度学力検査）の結果は次のようである。

（数値は得点率）

数学科

観点別学習状況	学年	全国	全国比
・数学への関心・意欲・態度	60.7	59.8	(+0.9)
・数学的な見方や考え方	41.8	38.4	(+3.4)
・数学的な表現・処理	70.5	66.5	(+4.0)
・数量、図形などについての 知識・理解	68.0	68.2	(-0.2)
3観点評定	60.1	57.7	(+2.4)

英語科

観点別学習状況	学年	全国	全国比
・コミュニケーションへの関心・意欲・態度	76.9	72.2	(+4.7)
・表現の能力	74.6	64.4	(+10.2)
・理解の能力	72.1	63.7	(+8.4)
・言語や文化についての 知識・理解	68.7	58.5	(+10.2)
3観点評定	71.9	62.2	(+9.7)

上記の結果より、英語科においては全国平均を各観点とも大きく上回っている。また、数学科においても全国平均をやや上回るか平均並みの数値を残している。領域別に全国と比較しても、平均を上回る領域がほとんどである。

4月に実施した教研式標準学力検査についても、全学年で全国標準を上回る結果を残しており、生徒一人ひとりの実態に目を向け、評価を生かした指導方法の工夫など、授業改善を進めてきた効果が少しずつ結果として現れてきていると考えられる。

2. 今後の課題

評価規準をより具体的なものとしていくことにより、生徒に身に付けさせたい力を明確にしていく必要がある。

生徒の自己評価、補助簿をふくめ単位時間における評価のあり方、特に関心・意欲・態度の評価について、その方法を更に研修していかなければならない。少人数指導，T・Tに限らず、生徒の実態に即した授業を行うために指導形態、教材・教具の充実を図らなければならない。

教研式標準学力検査およびC R T（観点別到達度学力検査）の結果から学年全体としては全国平均を上回る結果を残している。しかし個に応じた指導については課題が残る面もある。授業中の支援の工夫や、補充的な学習の時間を指導計画に位置づけるなど、B規準の達成に向け工夫を図っていかなければならない。

学力把握のための学校としての取組

4月全学年において教研式標準学力検査の実施及びその考察を行った。毎年実施し比較・分析することで、生徒の変容をとらえるなど実態を把握している。

2年生で、2月にC R T（観点別到達度学力検査 数学、英語）検査を実施した。

4月の教研式標準学力検査に比べて観点別の変容を把握するために実施した。

定期テスト、復習確認テストの実施と分析

生徒の観点別達成状況の把握と、課題の分析を行った。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成15年11月20日（木）公開授業実施

（郡内および東部管内の中学校を参加対象にして数学、社会、理科、英語の4教科の公開授業研究会を実施）

昨年度の町内での授業公開から、新田郡内および東部管内へと案内を発送したことにより参観者が増加した。授業研究会に於いても活発な意見交換が行われ、研究が深まった。

第3年次公開発表会 平成16年11月19日（金）... 予定

Webページの公開

研究の概要および各教科の単元指導計画、指導案を公開した。

県、東部でのフロンティア協議会での実践例報告

県および東部管内での協議会において、本校の実践および成果と課題を報告し、普及に努めた。

~~~~~  
次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校

【学校規模】             3学級以下                       4～6学級  
                              7～9学級                         10～12学級  
                              13～15学級                       16学級以上

【指導体制】             少人数指導                       T・Tによる指導  
                              その他

【研究教科】             国語             社会             数学             理科  
                              外国語         音楽             美術             技術・家庭  
                              保健体育      その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有       無